社会科（公民的分野）学習指導案

一関市立桜町中学校
教諭：酒井　大輔

１．単元名　　国際社会に生きる私たち　「人口と食料の問題」

２．単元について

持続可能な社会の形成を目指すにあたり、解決を急がれる問題の一つが日本の食品ロスである。近年では消費者庁をはじめ、各自治体での取り組みが行われ始めているが、まだ浸透していないというのが現状である。本単元では、世界の貧困と日本の食生活が結びついていることを踏まえ、私たちの生活の見直す機会とし、消費者の一員として国際協力や国際貢献に関わろうとする態度を育てたい。

３．授業について

（１）目標

食品ロスの問題が世界の食糧問題につながっていることを理解し、消費者の一員として望ましい消費活動について考え、まとめることができる。

（２）消費者教育の視点

持続可能な社会の形成をめざし、責任ある消費者として環境に配慮した実践を考える。

（３）展開

活動の内容	指導上の留意点	備考
０．「どうする？ミッション」に取り組む １．SDGs について知る	0．授業前に取り組ませる。 1．SDGs の存在を理解させる。 持続可能な社会を目指して行われている取り組みを短時間で紹介する。	ワークシート ＩＣＴ利用
２．学習問題の設定	持続可能な社会のために、消費者の私たちは何をすればよいのだろうか。	
３．資料から食糧問題の現状を考える 資料：各種統計 ・日本の食品廃棄量 ・日本の米生産量 ・世界の食糧援助量 ・世界の飢餓状況 ・ハンガーマップ（2015 年：WFP）	3．日本の食品廃棄量と、世界の食糧援助量を比較し、食品ロスの問題に気付かせる。 ・はじめは項目を隠してグラフを提示 ・最後にハンガーマップを班ごとに配布	ＩＣＴにて資料提示
４．これからの生活で自分たちにできることを考える。 ・「どうする？ミッション」を考え直す	4．グループで意見を交流する。	
５．本時のまとめ	5．ワークシートにまとめる（下線部を強調） 持続可能な社会をつくるために、消費者として無駄を出さないような消費のしかたを考えて取り組んでいくことが大切である。	ワークシート